

住み慣れた地域で生活を支える取り組み

株式会社 アール・ケア

訪問看護ステーション ママック

岩下 修 廣畑 淑郎 樺島 広貴 島田 崇史 山本 忠史

【目的】

主治医からの指示及びケアマネジャーからのケアプランを基に訪問看護ステーションから訪問リハビリテーションを提供しているが多様な事由にて入院するケースがある。この状況を防ぐべく入院リスクが高いと考えるサービス利用者（以下利用者）に対し実施した取り組みを報告する。

【対象】

岡山県南地域在住の利用者（医療、介護保険を含む）261名

【方法】

入院リスクが高いと思われる利用者を選出しその要因を以下に分類（①内科疾患②肺炎・発熱③転倒・転落④運動器疾患⑤心的事由⑥その他）。これらの利用者が入院に至る可能性を予測し、未然に防ぐための具体的な取り組みを個別・グループで検討した。避けられず入院に至った利用者ではその事由を調査した。期間はH26年6月～11月の6か月間とした。

【結果】

対策を行った利用者49名。対策するも入院となった利用者24名。対策を行わなかったが入院となった利用者39名であった。対策上位項目は③①②があげられた。また入院事由上位項目は⑥①②であった。

【考察】

対策上位項目である③については入院事由上位項目に含まれておらず、対策の効果がうかがわれる。一方、①②については対策上位項目にあがっているにも関わらず、入院事由上位項目に含まれている。また入院リスクが高いと考えなかった利用者における入院数が、入院リスクが高いと考えた利用者の入院数を上回ったことから、現状の評価に課題があることが示唆された。